114
A1296
1

就産資本金拝借願

国富強ノ本ハ各自獨立自治ノ精神ニ根シ獨立自治ノ精神ハ自営力食ノ基ニ成ル基清元ト幸ニ籍ヲ士族ニ列シ叨リニ平民ノ上位ニ班スト雖モ獨立自治ノ精神ヲ振起シ国民タルノ本分ヲ尽シ以テ聖朝ニ答フル処アランヲ欲シ嚮キ士籍ヲ去リ平民ニ帰シ日夜黽勉發憤從事スト雖モ獨立自治ノ境ニ達スルヲ得サルノミナラス尚未タ自営力食ノ謀ヲ得ス則チ国民ノ本分

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

2852

ニ狐負スルアリ剰ヘ今復タ閣下ニ乞願シ
大政府ニ向テ懇願哀訴シ特殊ノ恩典ヲ仰
ントスルハ基清等素ヨリ自ラ其罪ヲ知リ
恐悚慚懼ノ至ニ堪ヘス然リト雖モ縣下士
族ノ情況窮困ノ状態萬不得止モノアリ閣
下亦其ヒシヒシヲ諒スルナラン抑嚮キニ金
禄公債証書ヲ辱賜セシ以来未タ数年ナラ
サルニ業ニ既ニ之ヲ典賣セシモ十ノ四ニ
居ル蓋シ其ノ之シヲ失フ所以ノモノ或ヒ
ハ自家力作ノ至ラサルヨリ致ス処ノモノ
無キニ非スト雖モ亦然ラサルヲ得サル所
以ノ條理存スルモノアリ昔年一タヒ士族
ノ常職ヲ解キ賦兵ノ制令出ルニ及ヒ人々
ノ自ラ覚悟スル處アリ其日ニ無用ニ属ス
ルヲ知リ深ク前途ニ憂ナキ能ハス剣ヲ賣
リ犢ヲ買ヒ牙籌以テ甲冑ニ換エントシ頻
ル戒心豫備スル所アリ相尋テ俸禄ハ変シ
テ公債トナリ昨日ノ豫憂忽チ実窮ニ陷ル
リ只茫然トシテ進退據ヲ失フモノヽ如シ
尓来驚魂漸ク定リ各自就産生活ノ道ヲ謀

ラントシ其趨向スル所農タラントス欲スト
アリ商賈タラントス欲スルアリ而シ農タラ
ン欲数百円ノ公債未タ以テ一家生活ノ地
ヲ得ルニ足ラス商賈タラントス欲スルカ為
ス所習ノ処ニ非ス蹉躓失敗立処ニ至リ一
家溝壑ニ填スルニ至ル終ニ能ハス其ノ目的
ヲ達スルモノ実ニ千百ノ一上ニ過キス他
ノ士族ニ於テモ其斯ノ如キヲ熟視シ心ニ
以為ラク労シテ敗ルヽト寧ロ座食シテ尽
スニ如カスト一家團聚坐シテ以テ呻吟慨嘆

スルノミ本縣ノ士族一歳ノ利子七拾余円
ヲ得ルヲ以テ上等トナス蓋シ上等ナルモ
ノハ一万七千ノ士族中纔ニ十分ノ一ニ止
ラス今七拾余円ノ歳収モ之ヲ一銭無産ノ
貧民ニ比較スレハ甚タ間アリト雖トモ坐
シテ以テ一家終年ノ活ヲ買ハントス欲スル
ハ亦甚タ難キニ非スヤ加之頻年物價騰貴
歳収ノ全額ヲ抛ツモ十石ノ米ヲ購フニ足
ラス是ニ依テ公債ノ元資日ニ削リ月ニ糜
シ漸ク将ニ漸尽灰滅ニ帰シ復タ餘ス所ナ

カラントス今ニシテ其之レヲ救フ所以ヲ
謀ラスシハ三四年ノ後飢ヘシテ何ヲカ待
ン今夫レ天下ノ士族窮ハ則チ窮ト雖モ本
縣士族ノ如キハ指ヒ応サニ始メニ居スヘ
キヲ信ス如何トナレハ二三十年来国家ノ
多難ニ際シ旧藩ノ士年ヲ教養スルヤ節義
ヲ重シシ廉恥ヲ養ヒ日夜武事ヲ是レ務メ
シ餘習ノ及フ処鋤犂ヲ執リ牙籌ヲ弄シ
利ヲ規シ産ヲ謀ルモノハ視ヲ以テ同列ニ
齒セサルニ至ル今ヨリ之レヲ観レハ迂濶

笑フヘキモノヽ如シト雖モ戊辰前後幸ニ
諸藩ノ後ニ従ヒ奔走馳驅スルヲ得タルモ
亦其迂濶ニ原因シタルモノニシテ今日ノ
窮敢テ天下ノ窮ニ譲ラサル所以モ亦或ハ
其迂濶ニ原因セサルニ非スト云フモ不可
ナルナキニ似タリ且夫レ本縣ノ如キハ維
新前後数年内外ノ戰乱ニ遭遇シ余習性ヲ
ナシ時已ニ無事ニ属スト雖モ人気慓悍好
乱軽挙ノ心未タ消磨セサルモノアリ尚是
レ蟄虫ノ春雷ニ於ル如ク蠢動ノ心自ラ抑

歷スヘカラス加之ニ飢寒ノ憂切ナルヲ以テ益其輕挙好乱ノ心ヲ激成セリ近ク之レヲ徴スルニ丙子丁丑ノ事変ノ如キヤリ是レ素ヨリ首唱ノ煽動習性慓悍ノ然ラシムル所ト雖モ蓋シ亦飢寒困迫ノ憂大ニ之レカ媒介ヲナシタルナリ丁丑西南ノ変乱ニ際シ壮兵徴募ノ命アルヤ即一呼シテ応スルモノ数千人是亦素ヨリ朝命ニ應スル所以ト雖モ抑亦慓悍好乱ノ心ト飢寒憂苦ノ念ト相俟スルヲ以テナリ夫レ慓悍好乱ノ心之レヲ扶用スレハ則チ西南ノ役ノ如キ未タ必スシモ寸補ナキニ非スト雖モ之レヲ離散スレハ則チ丙子丁丑萩地ノ乱ノ如ク余毒ノ及フ所社會ノ不幸之レヨリ大ナルハナシ二三年前其情況已ニ彼ノ如キアリ既往ヲ以テ將来ヲ推スニ其困窮必死ノ極點ニ達セハ飢帛林ニ哺キ渇蛇沢ニ滿チ其景況言フニ忍ヒサルモノアラントスルモ亦未タ知ルヘカラサル也 基清等深ク此ニ慨スル処アリ頃者同志ト謀リ廣ク社中

ヲ募リ一社ヲ結合シ以テ一商業ヲ營為シ社
中同志ノ士相牟テ活路ヲ未飢ニ求メ公債
ヲ尚残スルニ保持シ縣下一分ノ安寧ヲ護
セントス抑其營業タルヤ大ニ風帆船ヲ製
造シ内國東西ノ貨物ヲ運送シ彼此ノ物産
ヲ貿易シ利ヲ其間ニ收メントス然レモ着
眼ハ遠大ヲ要シ着手ハ適実ヲ貴ブヲ以テ
先ヅ堅牢ノ船艦二艘ヲ製シ之レヲ運用シ
收利ノ如何ニ依テ漸次擴張スル処アラン
トス而シテ今粗ホ豫約スル所ノ株金既ニ
十万四千ニ達シ然レモ士族ノ有スル所金禄
公債ニ外ナラズ之ヲ以テ現金ヲ借ラント
欲スルモ縣下此ノ多額ノ金円ヲ得難ク総
令コレアルモ利子頗ル貴ク創業ノ際或ハ
其得其失ヲ償ハザランヲ恐レ依テ大政
府ニ哀訴シ金三万五千円ノ貸與ヲ願シ
則チ募集スル所ノ金禄公債ヲ以テ抵当ニ
充テント欲ス但償却ノ方法ハ無利五年据
置キニシテ第六年ヨリ四朱利付往キ十五ケ
年間ニ之ヲ完納スヘシ縣下幸ニ馬関ノ地

アリ該地ノ位置タル東西ノ運送ニ便利ニ
シテ而是レ確得ノ港口タリ依テ本社ヲ該
地ニ置キ其ノ業ノ盛大ニ至ルヤ多ク船舶
ヲ製シ北ハ蝦夷松前ヨリ西朝鮮薩隅ニ至
リ東ハ東京大阪ニ通シ海路運送ノ便ヲ謀
ラハ獨リ社中ノ利益ヲ得ルノミナラス枕
海ノ術亦習熟シ国益ヲ神ヲニ定ルモアラ
ン仰キ願クハ閣下 基清等ノ衷情ヲ憐ミ士
族ノ情況ト 基清 等カ請願スル所ヲ伝テ之
レヲ大政府ニ閣申アランヿヲ幸ニ閣下ノ
周旋ニ依リ大政府特殊ノ恩典ヲ以テ請願
ヲ准允セラレンヿヲ得ハ 基清 等社中同志ト
謀リ誓テ自営力食ノ基ヲ立テ一国富强ノ
幾分ヲ補助スル処アラントス 基清 等衷誠
懇願ノ至リニ堪ヘス

山口縣士族株主惣代平民
佃 基清

明治十三年三月十

山口縣令關口隆吉殿

士族就産金拝借願ニ付上申

別紙本邦士族細基清ヨリ士族就産資本金拝借ヲ願出候事本邦士族往年ヨリ漸次貧困ノ情態ハ政府ノ夢中洞知被為在候所ニテ金禄公債ハ其行ヒ後ハ窮迫益甚敷者自就産ノ道ヲ謀ラントスルモ其道向スル所ヲ失ヒ唯日々ニ僅カノ資産ヲ消費シ坐食以テ飢ヲ凌ツモノ比々皆然リ然ルニ別紙出願ノ如キハ頗ル産業ノ目途ヲ定メ同志結社以テ公債ノ殘餘ヲ維持シ士族一分ノ安寧ヲ保ムントス而シテ資本金ノ完全ナラサルヲ苦シミ政府ニ衣訴シ以テ貸與ヲ乞ハントスルノ旨ニ付何卒特別ヲ以テ願意聞届

而シテ成ト変化ヲ了帆船ヲ製造シ貨物ノ
運送物産ノ貿易等適實ノ事業ニ着手
シ漸次擴張スル所アリテ一旦方向ヲ失ヒ飢
寒ニ迫ル者亦稍自營力食ノ道ニ赴キ獨リ
士族中ノ幸福ノミナラス併テ國益補助ノ一
端トモ可ル歟其詳細ハ別紙具陳ノ通シ
有ラン之間至急何分ノ法指令被下度此段
上申ス也

明治十三年二月十七日　山口縣令

内務卿松方正義殿

就産資本金拝借願

抑本縣士族一般ノ困窮年一年ヨリ増シ日一日ヨリ甚シ
其實況ハ兼テ縣廳ニ於テ御洞知被為在矣通リニ付今復
タ之ヲ贅セスト雖モ元来本縣士族ノ状タルヤ十数年来
國家ノ多難ニ際シ内外数度ノ戰乱ヲ経テ慓悍風ヲ成シ
安動俗ヲ成シ別テ國事政論ノ爲メニ動搖シ易ク已ニ旧
藩中ニ在リテモ屢闘牆ノ抗爭ヲ釀シ置縣後ニ於テモ萩
地両度ノ騒乱ヲ生シ餘燼ノ及フ処今尚ホ他方ニ事アル
時ハ動モスレハ蹶起呼號ノ態アルヲ免レス萩地両度ノ
騒ノ如キ素ヨリ首唱者ノ煽動ニ出ルト雖モ其之ニ響應
スル所以ノ者ハ其慓悍ノ性ニ加フルニ貧困窮迫ノ之ヲ
激成シメルヨリ前年尚ホ且ツ此ノ始末日今士族ノ窮ヲ
推シテ將来ヲ量ルニ他年若シ此不幸ニ際セハ或ハ恐ル

214
A 1266
2

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

其害復々前日ニ止マラサランコトヲ所謂恒ノ産アルモノハ恒ノ心アリ蓋シ其弊害職トシテ是レニ依ルトキハ則チ豫防セントシ欲スル者ハ誘導シテ以テ自営生活ノ道ヲ就カシムルヨリ外ナカルヘシ縣廳ニ於テモ其此ノ如キヲ御憂慮有之先年来就産力食ノ道勧奨誘掖御尽力被為在ト雖モ進取ノ志アル者ハ資力ニ乏シク資力アル者ハ進取ノ氣象ヲ欠キ適々商ニ工ニ着手シタル者ハ盡リ中道ニシテ蹉躓シ漸ク一家活計ノ道ヲ得タル者僅有絶無ト云フモ誣言ニ非ス私共二三有志ノ者深ク憂ニ慨ル必アリテ十数年来猶思熟慮スト雖モ別ニ妙案モ無之必近来二事ノ目的ヲ達ス可キ者ヲ得ル依テ同族有志者ト謀リ一社ヲ結合シ協力同心此ノ二事ニ從事シ本社中各自ノ獨立ヲ謀リ亟ハ縣廳御勧誘ノ恩意ニ報シト欲ス然シモ元来無資力ノ私共相結合スト雖モ起業ニ付テハ各分ノ資本ヲ要スルヲ以テ社中各自ノ全力ヲ尽スモ能ハ之ヲ辦スヘキニ非ス依テ特ニ政府ノ慈惠ヲ仰キ社中起ノ目的ヲ達セントス幸ニ御採用被下度奉願奏二事ノ起業一ヲ「セメント」製造ノ事トシ一ヲ荒蕪開墾シ桑植付ノ事トス今二事起業ノ目的ト利害計算ノ概畧ヲ左ニ陳シ以テ拝借金ヲ請願スル所アラントス

セメント製造ノ事ヲ四五ヶ年前ヨリ発起セリ抑築造ノ方法開進スルニ隨ヒ「セメント」ノ需用日々夫キヲ加フルト雖モ只東京ニ於テ製造ノ御着手有ノミニシテ他ニ之ヲ製スルヲ聞カス依テ数年其製造ノ方法ヲ試験講究シ其間多ク困難ヲ経テ即今已ニ實用ニ適スヘキ製品ヲ得ルニ至ル今茅縣下ニテ該品製造ニ便益ナル者二アリ

則千元帥汽土ヲ産スルノ多キト製造ニ必需ナル石炭石灰産出ノ多キト是ナリ今製造場ヲ厚狭郡船木地方ニ設置スルトキハ其地ノ近接ニ於テ元質泥土ヲ出ス処数ヶ所ニシテ小ナルモ六七十町歩大ナルハ三四百町歩一面ノ元質泥土ナラサルナシ而シテ石炭ニ至リテハ最モ接近ノ地ニ産シ石灰モ亦近境ヨリ製出ス但シ「コークス」代用ノ無煙石炭ヲ紀州ニ取ラサルヲ得サルノミ差ニ於テ鉄品製造ノ方法ヲ質問シ兼テ製品并元質泥土石炭石灰ノ試験ヲ乞ヒ製造利害ノアル処傳習ノ為メ常出有仕リ工部省御所轄深川製造場ニ罷出御掛リ宇都宮權大技長鈴木三等技手両氏ニ謁シ製品并元質品ヲ呈シ候処御ノ上ニ相成リ且元質良好ト御見認メ有之依テ製造方法更ニ御質問仕候処是迄私共講究シタル方法ト更ニ異ナルナリ

則千此度私共発起ノ業厚ク御賛成ヲ蒙リ欣喜ノ至ニ堪ヘシテ両氏ノ御教諭ニ云リ抑「セメント」製造ニ必需ニシテ最モ多量ヲ要スルハ泥土石炭石灰ニ外ナラス」川製造場ニ用ユル所ノ石炭石灰皆之ヲ数百里若シクハ数十里ヨリ運搬セサルナシ然ルニ此ノ二品山口県ニ於テハ皆之ヲ近接ノ地ニ取ル唯無煙石炭ヲ紀州ヨリ運搬セサルヲ得ス然レトモ是尚東京ト雖モ差違ナケレハ暫ク措テ問ハス是ヲ以テ其得失利害實ニ喋々ヲ要セサルナリ然リト雖モ山口県ニ製造場ヲ設クルモ至要ナル一事ノ我深川製造場ニ及ハサルアリ他ナシ深川製造場ノ資本金ハ官金ニシテ無利ナレハナリ抑製造場建築蒸汽器械買入其他凡百ノ資本金凡ソ六万円餘トス今同志結合シテ會社ヲ設ケ資本募集スル時ハ皆是レ有利ノ金タラ

サルナリ元金私金有利無利ノ間其得失鮮ケナラス然ル
時ハ前陳之貨需用品運搬等ニ便ナルモ或ハ無功ニ歸シ
深川製造ト價格ヲ同フシテ賣却スルモ自ラ利益ヲ收
ムル少ク製造ニ從事スルモ六七年間ハ頗ル困難ト云フ
ヘシ然レトモ数年從事セハ漸次利益アラントスルニ而シテ遂
年「セメント」ノ需用ヲ增シ深川ノ製スル処偏ク世ノ需用
ニ供スルニ遑アラス依テハ大坂神戸ノ間ニ於テ製造場
設立ノ建白ニ及ハントス予等ニ於テモ思考スル処アリ久
リ今山口縣ニ其擧アラントスルハ予等ノ企望ト暗合シ
深ク賛成スル処ニシテ後来ノ利益ハ之ヲ掌ニ視ルカ如
シ其製造法ニ至リテハ請永ニ隨ヒ職人ヲ深川ニ入レ
テ實地ノ現業ヲ執ラシメ熟練ノ上帰テ以テ役事セシメ
ハ製造量ノ良ハ如ル亦之ヲ保證スルニ足ル依テ迂説シ

テ以テ内ハ民族ノ利益ヲ謀リ世間供給ノ不足ヲ補ヒメ
ハ輸入ヲ防遏シ国益ヲ興スヘシト其後屢両氏ニ會シ其
概算ヲ質問仕候処器械買入製造所建築費物品仕入等
切ノ資本金六万二千三百圓ヲ要シ此金額ヨリシテ一ケ
年製造高壱万千二百樽ヲ得ル一樽代價五圓トシテ総代
價五万六千圓ヲ得ル此ノ金額ハ則チ外国ノ輸入ヲ永世
ニ防キ且ツ製造ニ帯役スル者一ケ年ニ凡ソ壱万人ニ下
ラサルハ是亦士族授産ノ一便法ナリトス而シテ右総代
價ノ内之ヲ他方ニ散スルハ只無烟石炭ノ價ノミ私共縣
地ニ於テ已ニ該業ノ利益アルヲ信シ出府以来両氏ノ教
諭ヲ得テ益以テ宿志盈起ノ誤見ナラサルヲ確信スルニ「セ
メント」製造ニ關スル者概ク左ノ如シ
一金四千二百圓　是ハ蒸氣器械二十五馬力餘ノ分買入代

一円壱万弐千圓　ヘバ焼煉瓦ヲ基建築代
一円四千圓　是ハ乾シ煉瓦建築代
一円千百圓　是ハ沉殿場築調代
一円千五百圓　是ハ蒸氣器械据付煙筒其他諸費皆
一円貳千圓　是ハプレットモーレンノ代
一円千貳百圓　是ハ地面三町歩ノ代
一円六千圓　是ハ居家兼製造品置場二百坪餘建築代
一円三万圓　是ハ製造セメント毎月千樽ニシテ六ヶ月分六千樽
五圓ノ仕入資本金
合計六万貳千三百圓

抑製糖ノ利用蔗培殖ノ益アルハ往々實験家ノ喋々ニ
愛ニシテ報告書新聞等ニ綴々掲載スル処ナレハ今復
々繁ヲ俟タス私ハ其利益アルヲ信シ追々用蔗ノ培養ヲ

已ニ昨年モ小〻ハ於テ琉球用蔗兼蓋栗ヲ作リ試験ノ為
メ製造シタル砂糖先般大坂共進會ヘ出品御縣下ヨリ十名衛
仕居候ニ付此者器械ヲ借受ケ製造シタル縁故ヲ以テ同人名前ヲ付セリ仕置タリ然ルニ本縣美
村臺山ハ方三里荒々タル山野ニシテ其中岡陵平陂起伏
相連リ平面只菅茅荊蕀ヲ生シ其地理タルヤ高原ノ地ナ
ルヲ以テ田地ト為スヲ得スト雖モ其地味ニ至リテハ頗
ル膏腴ニシテ琉球用蔗芋栗茶樹等ニ培養スルニ尤モ適
當ナルヲ信ス則チ過般共進會ヘ出品セル製糖琉球用蔗
芋栗等ノ產地ト同一ノ地質ナリ而シテ臺山ノ位置タル
ヤ萩地ヲ距ル纔ニ十里ナレハ同族ヲシテ移住セシムル
亦難キニ非ス依テ該地ヲ開墾シ同志ノ士相互ニ移住
シ用蔗等ノ培植シ遂ニ造場ヲ建築セントス而シ
テ開墾ノ業ヲ興ネサルヲ得サル
亟ノ業ヲ興ネサルヲ得サル

ハ歐州一般ノ經事ニ付折中斟酌シ譬ヘハ百町歩ヲ開墾スレヤ五三ニ別十町歩ヲ一區トシ其四区ハ甘蔗芋蔗若シクハ大小麦油菜等ヲ播種シ一区ヲ牧場トシ毎年交換作ノ法ヲ用ヒントス今該地ニ就テ其難キ所ヲ捨テ平地開墾ナシ易キモノヲ選フモ一百万歩ノ地ヲ得ルハ容易ニシテ則チ三百三拾余町歩ト為リ一戸一町歩ヲ給スルモ則チ三百三拾戸ノ士族ヲ移住セシムルニ足ル開墾種藝ノ事ハ素ヨリ一時巨大ノ利益ナシト雖モ六七年間ヲ経ハ無資力ノ輩モ其地ニ安着シ復タ一家飢餓ノ憂ナカル可ヲ信スル而已ナラス曠漠ノ原野変シテ有益ノ地ト成リ共國家ニ公利アル豈ニ復タ贅言センヤ其経費概算ノ如キ則チ左ニ之ヲ陳ス

一金壱万五千円　是ハ肥料初年拂渡一歩一銭五厘宛積

一円貳万円　是ハ一百人ノ開墾費一歩二銭宛積

一円壱万三千二百円　是ハ仮箇屋三百世戸茅葺一戸四十円宛積

一円千七百円　是ハ製糖器械五基据付ノ積り

一円千八百円　是ハ牧牛六十疋ニ付三拾円積り

一円六千円　是ハ耕具製糖其他収穫品買上牧牛等ノ資本

合計五万七千七百円

前陳ニ事起業ノ為メ費用資金供セキ拾貳万円ヲ要ス此ノ二分ノ一六万円ハ同志ノ者結社シ自辦ノ目的有之候得共其二分ノ一則チ六万円ヲ政府特別ノ恩惠ニ依リ無利特借仕度尤モ償却方ノ儀ハ五ヶ年間据置キ六ヶ年目ヨリ往キ十ヶ年間則チ年賦二十分ノ一宛毎年十一月迄納仕度償却ノ目的ノ六万円ニ當ル株主ト六万円ノ拝借金トヲ合ニ着手シ事業ノ進歩ニ隨ヒ

漸次増株ニ十一ヶ堡

以テ拝借金年賦返納ノ見込

ニ御座候最ハ人心ヲ目

的トシムルノ趣意ナレハ別年凡則ニ基キ社中ヲ募集ス

ルノ目的ニ有之候私共発起総代トシテ上京仕候処幸ニ

閣下ノ御出府ニ際シ不顧恐懼出先ニ於テ願仕候間何

卒同族授産ノ為御採用相成候様偏ニ奉懇願候也

明治十三年三月

山口縣下族

笠井順八

荒川左兵衛

山口縣令関口隆吉殿

自社内利

一本社同盟ノ株主タル者ハ左ニ挙ル條件及其制定ニ

ル処ノ規則ヲ確守スヘシ抑物産自治ノ基ハ自営ハ食

ニ生シ自営力食スル能ハサレハ未タ物産自治ト称ス

ルニ足ラス依テ株主ニ加入スル者ハ奮テ物産自治ノ

目的ヲ達スルニ至ル迄ハ猥リニ世論ニ依テ方向ヲ左

右シ高尚ノ議論ヲ唱説シ自営力食ノ方向ヲ誤ルヘカ

ラス若シ前ニ挙ル趣旨ニ違背スル者ハ株金ヲ返附シ

脱社セシムヘシ

一一株ヲ金百円トシ惣株数千二百株共惣高金拾二万円

トス一人数株主タルモ方今ナシト雖モ数人合テ一株

主タルヲ許ス

一社中ニ於テ株主ノ分配ヲノミ望ミ開墾地ニ移

任スルヲ欲セサル者ハ自耕者ト為ス

一社中開墾地ノ経営ノ者ハ自耕者ト為シ開墾地ニ仮簡屋ヲ設ケテ移住セシムヘシ自耕者自ラ開墾スル者ニハ器械ヲ渡シタル外別段ニ定メタル給金ヲ付與シ且初年ハ肥料現品ヲ渡スモノトス

一開墾地ハ専ラ芋栗甘藷ノ類ヲ播種シ其作物ハ之ヲ他ニ売却スルヲ許サス必ス相当ノ價格ヲ定メ之ヲ本社ニ買収ム交換作ノ為大小麥其他ヲ播種スルハ自己収入スヘシ

一社中牧牛法ヲ傳受セント欲スル者ハ相当ノ給ヲ付與シテ役仕スヘシ

一社中「セメント」製造ニ従事セント欲スル者ハ亦相当ノ賃銭ヲ給シ仕ハスヘシ

一毎年株主ニ対シ年一割則チ十分ノ一ノ利子ヲ下ラサル中ニ拂渡スヘシ

一収益金ノ内ヨリ前条ニ挙ル利子ト諸雑費ヲ引去リ其余ハ年々元金ニ加ヘ増殖蓄積スヘシ

一頭取其外役員ノ給料賞與金額ハ別段ノ申合規則ノ以テ之ヲ定ムヘシ

一社中ハ何時モ會社ニ向ツテ諸帳簿ヲ検スルノ権有リトス

一毎年十二月三十日ヲ一期トシ勘定報告書ヲ作リ配賦スヘシ

但政府拝借金完納スル迄ハ勘定書ヲ縣廳ニ呈シ毎一ヶ年西暦[illegible]月ノ時ノ検査ヲ受ケ保護仰度既ニ青[illegible]

一會社中ノ細列ハ諸社人株主ノ集會ヲ開キ衆議ノ上
締制スベシ
一同志ノ面々ハ株数元ニ名ヲ自記シ調印アラン事ヲ
望ム

以上

右ノ趣旨ヲ以テ株主募集ノ積リニ候得共同族信用ノ否
ニ依リ千二百株募集ノ程覚束ナリ先ツ六百株ヲ募ル丈
ケノ見込ヘ有之義ニ付追年事業ノ進歩ニ隨ヒ残六百株
ヲ増神シ拝借金返納ニ充テ候見込ニ御座候也

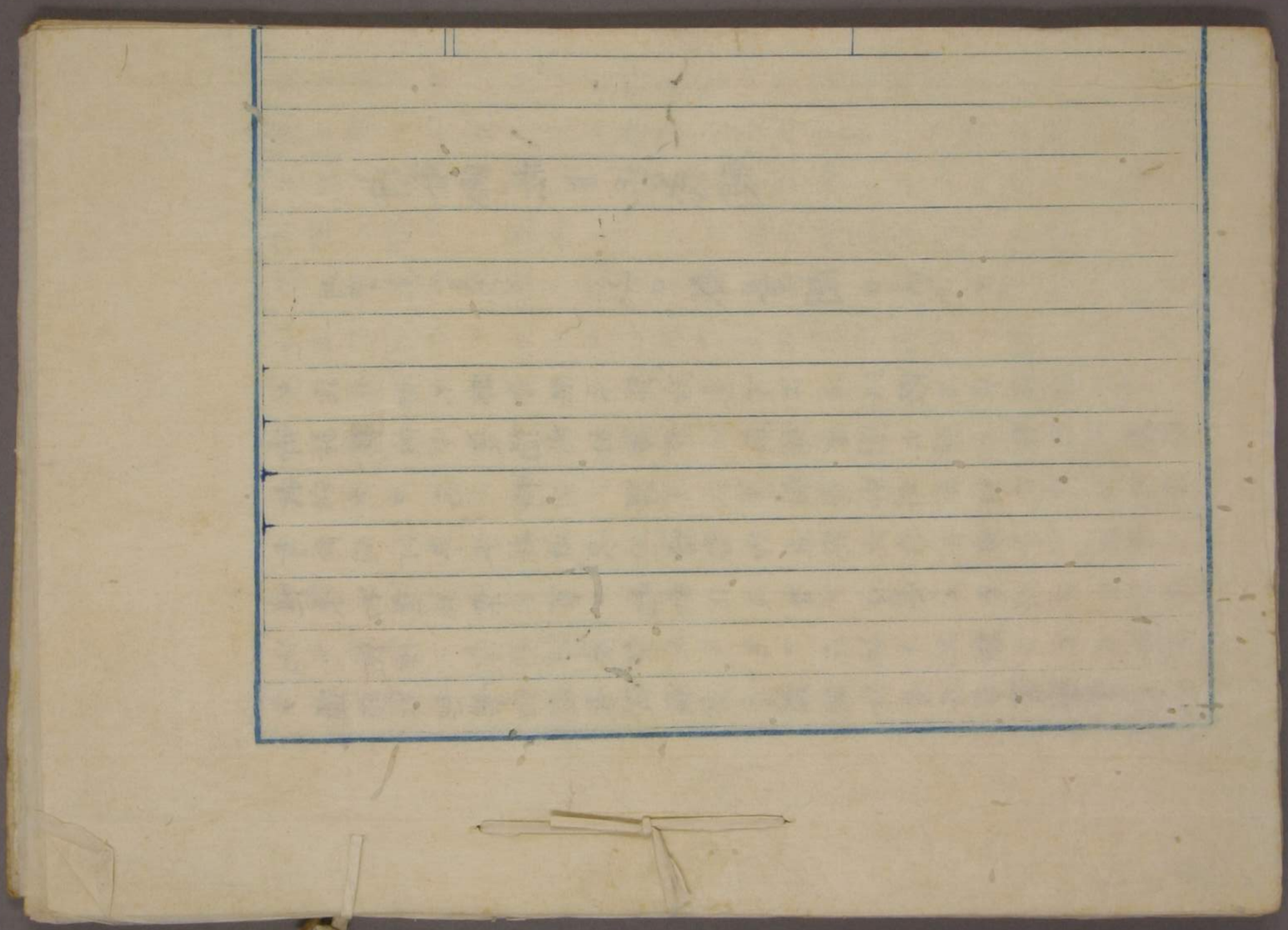
士族授産ノ為メ拝借金願ニ付上申

李縣士族授産ノ為メ「セメント」製造荒蕪開墾等ニ拝借金
ノ儀士族筆井順八等ヨリ歎願書別紙及上申候間御採用
被成下度抑維新以前国家多難ノ日ニ當リ旧山口藩士族ハ
夙ニ勤王敵愾ノ志ヲ興シ奮テ身ヲ顧ミス東奔西走兵馬
ニ従事シ内外数度ノ戰乱ヲ経屢挫折スト雖モ其素志ヲ
改メス遂ニ強ク禍乱ヲ戡定シ王業ヲ恢弘スルモノハ皇
威ノ及フ所ト雖モ旧藩士族共テ力アリトスハサルヲ得
ス其間サシク資産アル者ハ悉ク之ヲ國事ニ消費シ復タ
蓄積ヲ謀ルニ暇アラス唯聖朝ノ恩俸賞典ヲ仰キ以テ生
計ヲナスニ過キサルノミ而シテ旧藩ノ禄制ヲ改革スル
痛ク舊俸ヲ削減シ士族新日ノ印紙ヲ以テ増俸加禄アラ
ンコトヲ望ム者均シク裁制ヲ加ヘラレ衆キノ安逸以テ餘

生ヲ送ラント欲セシ所急変シテ貧困前途ヲ憂フルノ意想ヲ起スニ至ル是レ勢ノ不得已ニ出ツル者ト雖モ其憂分之ヲ他府縣ニ比スルニ實ニ寛裕トスヘカラス故ニ不満ヲ懷クノ徒動モスレハ怨呼哺聚屢閭巷ノ間アルヲ免レス庚午脫隊ノ乱及ヒ萩地両度ノ変ノ如キ是レ慓悍好乱ノ性然ラシムルト雖モ亦其苛削輿望ヲ壓カシメス窮迫衆心ヲ激スルニ由ルニ非スンハアラス金禄公債ノ発行モシヨリ士族ノ貧困益甚敷素ヨリ前途営産猶之ノ目的ナキノ三ナラス目下ノ窮困朝不謀夕復タ之ヲ如何トモスヘカラス就中稍資力アル者ト勉強力アル者トヲ勸誘シ開墾商業等ニ従事セシムルモ商業ノ如キハ蹉躓スル者十ノ八九開墾ニ至リテハ良好ノ地處ト十分ノ資本トヲ得サルヲ以テ偏ク之ヲ實施スルヲ得ス折柄別紙

ノ通結社起業致度旨出願候付取調候處其事業着實ニシテ他ノ僥倖ノ浮利ヲ企望スルモノヽ如キニ非ス且出願者従来物産勧業ノ事ニ勉励仕候者ニ付必ス奏功可致ト思考候間何卒本縣旧来ノ情勢御通觀被為在現今ノ窮困ヲ救ハンカ為メ特別ノ譯ヲ以テ願意御聞届相成候様至急御詮儀被下度猶結社事業ノ取締金圓出納ノ監視ハ縣廳ニ於テ聊不都合無之様註意可仕候此段上申候也

明治十三年三月十七日

山口縣令関口隆吉

内務卿松方正義殿